AgileWorks R3

外部マスタ(拡張)ガイド

R3.3 第1版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. 外部マスタ(拡張)について 4
1.1. 外部マスタ(拡張)とは 4
1.2. 外部マスタ(拡張)データの名称・型について 4
外部マスタ(拡張)のテーブル・ビュー名について 4
マスタ参照で利用できる型 5
1.3. 外部マスタ(拡張)の作成方法 6
管理サイトから手動で作成 6
管理サイトからインポートして作成 7
データベースに直接接続して作成 8
1.4. 外部マスタ(拡張)へのデータ登録 8
1.5. 外部マスタ(拡張)への操作について 8
2. 外部マスタ(拡張)インポートについて 9
2.1. 外部マスタ(拡張)インポートジョブ 9
2.2. 外部マスタ(拡張)インポートジョブの流れ 9
2.3. 外部マスタ(拡張)インポートジョブの設定方法 10
2.4. 外部マスタ(拡張)インポートジョブの実行方法 10
3. ジョブの設定 11
3.1. 外部マスタ(拡張)インポートジョブ設定の新規作成 11
3.2. 外部マスタ(拡張)インポートジョブ設定の確認と編集 12
3.3. 外部マスタ(拡張)インポートジョブの通知設定 12
4. インポートデータの準備 13
4.1. データ形式 13
5. 外部マスタ(拡張)インポートの実行 14
5.1. 管理サイトからの即時実行 14
5.2. 設定を用いたスケジュール実行 15
インポートファイルのアップロード 15
5.3. バッチ実行による即時実行 19
スクリプトの取得・構成・接続する AgileWorks の設定 19
スクリプトの実行 19
インポート結果の確認 21
6. 外部マスタ(拡張)インポートジョブの結果確認 22
6.1. ステータスの確認 22
6.2. 実行状況・実行結果の詳細確認 22
7. 外部マスタ(拡張)のエクスポート 24

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. 外部マスタ(拡張)について

この章では、AgileWorks の外部マスタ(拡張)について説明します。

1.1. 外部マスタ(拡張)とは

外部マスタ(拡張)とは、AgileWorks の外部マスタ(拡張)領域に登録されたデータベースの表およびビュー表を指します。この外部マスタ(拡張)に登録されたデータをマスタデータとして、フォームのマスタ参照やコンボボックスの選択肢として利用することができます。

フォームのマスタ参照やコンボボックスに外部マスタ(拡張)を利用することによって、フォーム自体を修正することなく、マスタ参照やコンボボックスの選択肢を変更できるようになります。

▼外部マスタ(拡張)を利用している場合と利用していない場合の手順差異
例）交通手段を選択するコンボボックスが存在するフォームにて、交通手段の選択肢として”飛行機”を追加したい
＜コンボボックスに直接選択肢を指定している場合＞
以下の手順が必要となります。
1) フォームをダウンロード
2) コンボボックスの選択肢に”飛行機”を追加
3) フォームを修正アップロード

＜外部マスタ(拡張)を利用している場合＞
以下の手順となります。
1) 利用している外部マスタ(拡張)データに”飛行機”を追加

▼マスタ参照の画面イメージ



1.2. 外部マスタ(拡張)データの名称・型について

外部マスタ(拡張)を作成する前に以下の仕様をご確認ください。

外部マスタ(拡張)のテーブル・ビュー・カラム名について

外部マスタ(拡張)のテーブル名、ビュー表名、カラム名に利用できる文字は以下の通りです。
・半角英数字
※Oracle の場合は「大文字」、MySQL／SQLServer の場合は「小文字」
・アンダースコア(_)

マスタ参照で利用できる型

外部マスタ(拡張)をマスタ参照ウィンドウから利用する際には、利用できる型に制限があります。
マスタ参照ウィンドウは、直接 SQL 文で項目検索や一覧表示を組み立てられる機能ではありませんので、日付系カラム等を利用してしまうと、
・一覧表示の書式が DB 依存の内部的な表示形式になってしまう。
・対象カラムに対して、絞込検索できない。
等の制限が出てしまう為、あえて文字型・数値型のカラムのみマスタデータとして定義される仕様にしております。
※) 外部マスタ(拡張)を SDK から利用して JDBC 経由で操作する際には JDBC プログラミング上の制限以外に特に制限は設けておりません。

マスタ参照ウィンドウから利用できる型は下記の通りです。
※()内の n 又は m には利用する文字数が入ります。

パッケージ版の場合

利用しているデータベース毎に異なります。

▼Oracle Database の場合

型	マスタデータ上の型
CHAR(n char)	文字
VARCHAR2(n char)	文字
NUMBER(n,m)	数値

▼Microsoft SQL Server の場合

型	マスタデータ上の型
char(n)	文字(UNICODE は利用できません)
nvarchar(n)	文字
int	数値
tinyint	数値
smallint	数値
bigint	数値
float	数値

▼MySQL の場合

型	マスタデータ上の型
char(n)	文字
varchar(n)	文字
tinytext	文字
int	数値
tinyint	数値
smallint	数値
mediumint	数値
numeric	数値
bigint	数値
float	数値

▼PostgreSQL の場合

型	マスタデータ上の型	備考
STRING(n)	文字	
INT	数値 10 桁	
LONG	数値 19 桁	
DECIMAL	数値	R3.2.1 より利用可能

クラウド版を利用している場合

以下の型を利用できます。

型	マスタデータ上の型	備考
STRING(n)	文字	
INT	数値 10 桁	
LONG	数値 19 桁	
DECIMAL	数値	R3.2.1 より利用可能

1.3.　外部マスタ(拡張)の作成方法

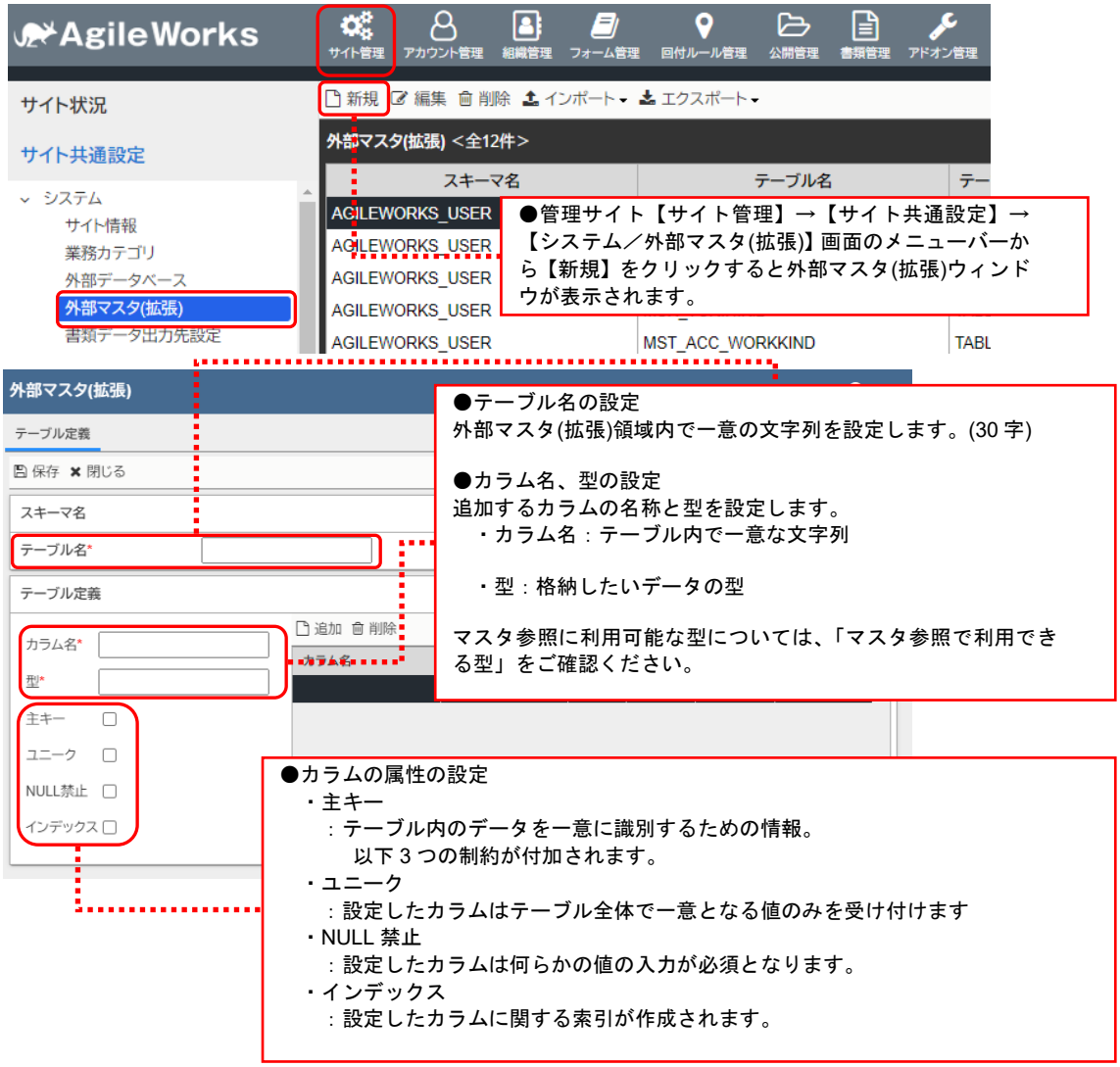
外部マスタ(拡張)の作成には以下の方法があります。

・管理サイトから手動で作成
・管理サイトからインポートして作成
・データベースに直接接続して作成

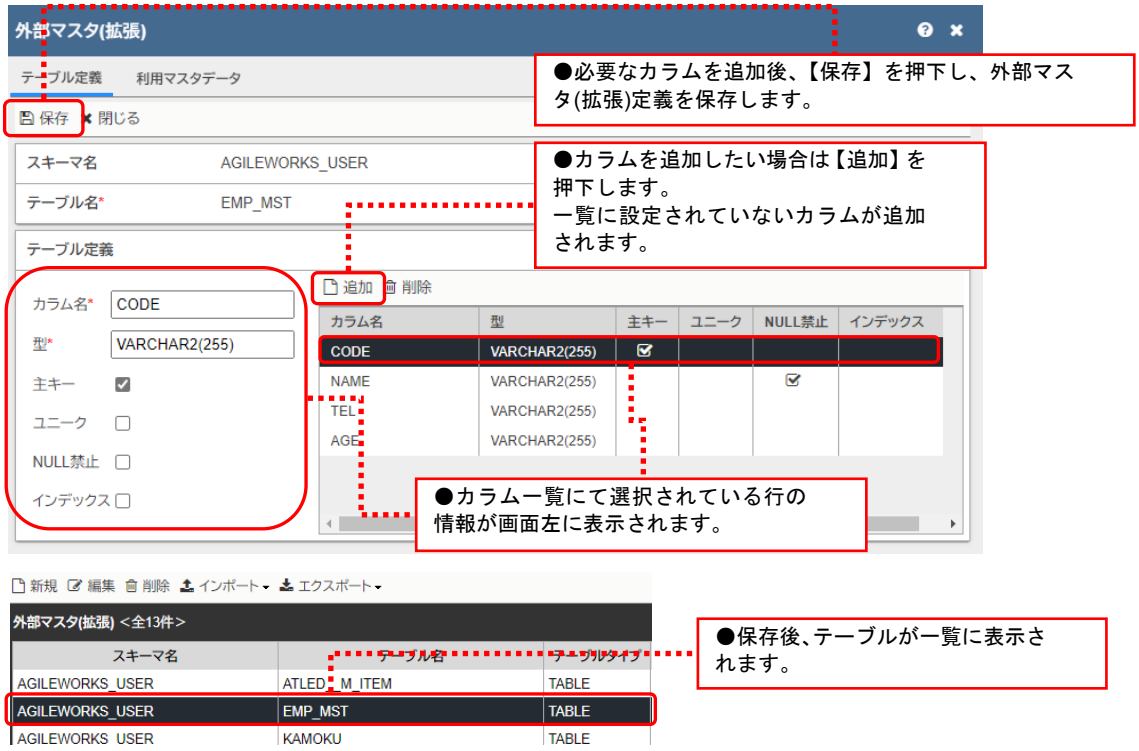
※”データベースに直接接続して作成” はデータベースに接続できる環境で可能。クラウド版は利用できません。

管理サイトから手動で作成

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【システム／外部マスタ(拡張)】



▼カラムの追加とテーブル定義の保存

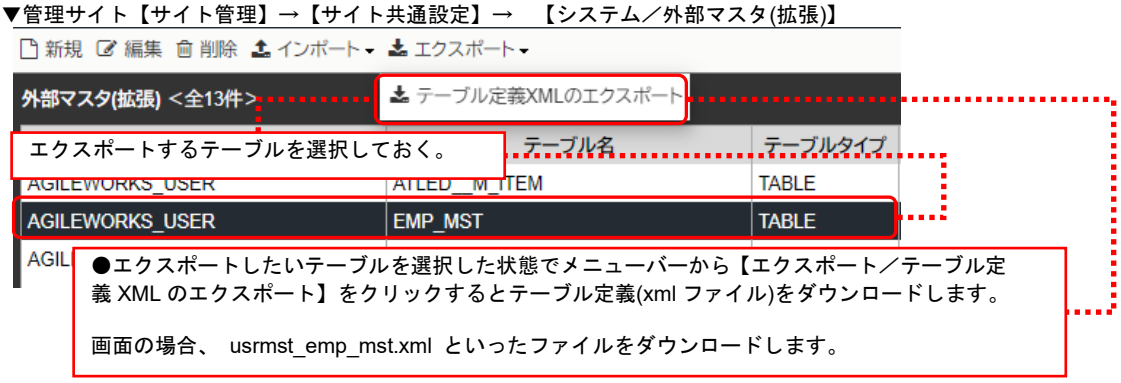


管理サイトからインポートして作成

既存の外部マスタ(拡張)定義をエクスポート／インポートによって、別環境の AgileWorks へ同定義の外部マスタ(拡張)を作成することが可能です。

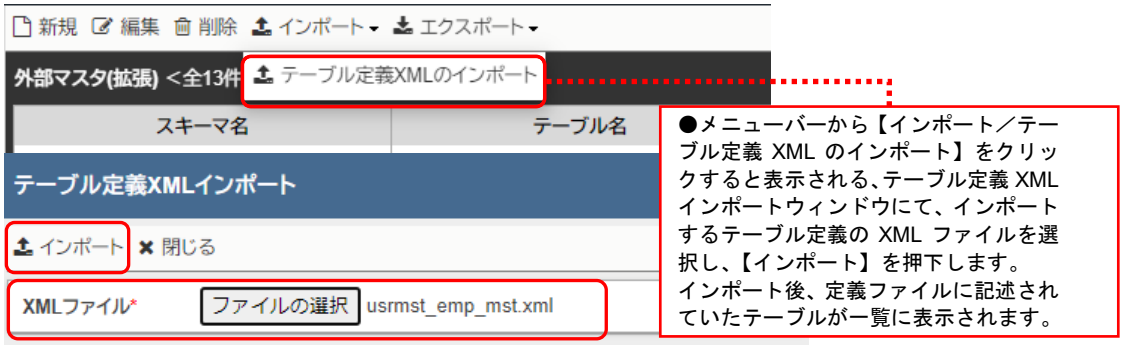
外部マスタ(拡張)定義のエクスポート

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→ 【システム／外部マスタ(拡張)】



外部マスタ(拡張)定義のインポート

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→ 【システム／外部マスタ(拡張)】



データベースに直接接続して作成

AgileWorks のデータベースが稼働しているサーバーへ接続できる場合は、データベースへ直接接続し、AgileWorks のユーザー領域に外部マスタ(拡張)を作成することができます。

データベースへ接続する方法は利用されている環境の管理者へご確認ください。
また、テーブルの作成は利用されているデータベースの仕様をご確認の上、実施をお願いします。

MySQL を利用している場合の注意事項
AgileWorks ではストレージエンジンが InnoDB のテーブルのみをサポートしています。
データベースに MySQL を利用している場合は、外部マスタ(拡張)テーブルの作成時にストレージエンジンを InnoDB に指定し、テーブルを作成してください。

1.4. 外部マスタ(拡張)へのデータ登録

外部マスタ(拡張)へのデータ登録には以下の方法があります。

・外部マスタ(拡張)インポートジョブにて登録
・データベースに直接接続して登録

AgileWorks のデータベースが稼働しているサーバーへ接続出来ない場合は、外部マスタ(拡張)インポートジョブを利用してください。

1.5. 外部マスタ(拡張)への操作について

既にマスタ参照に利用している外部マスタ(拡張)に対して、何らかの変更操作を行う場合は、夜間などユーザーが利用していない時間に行ってください。

外部マスタ(拡張)定義と、マスタ参照設定が一致せず、エラーとなる場合があります。

例) マスタ参照時にエラーとなる例
- 外部マスタ(拡張)テーブルの削除
- カラム名の変更
- カラムの削除

2. 外部マスタ(拡張)インポートについて

外部マスタ(拡張)インポートとは AgileWorks の外部マスタ(拡張)に対して、CSV ファイルからデータの一括登録を行う機能です。

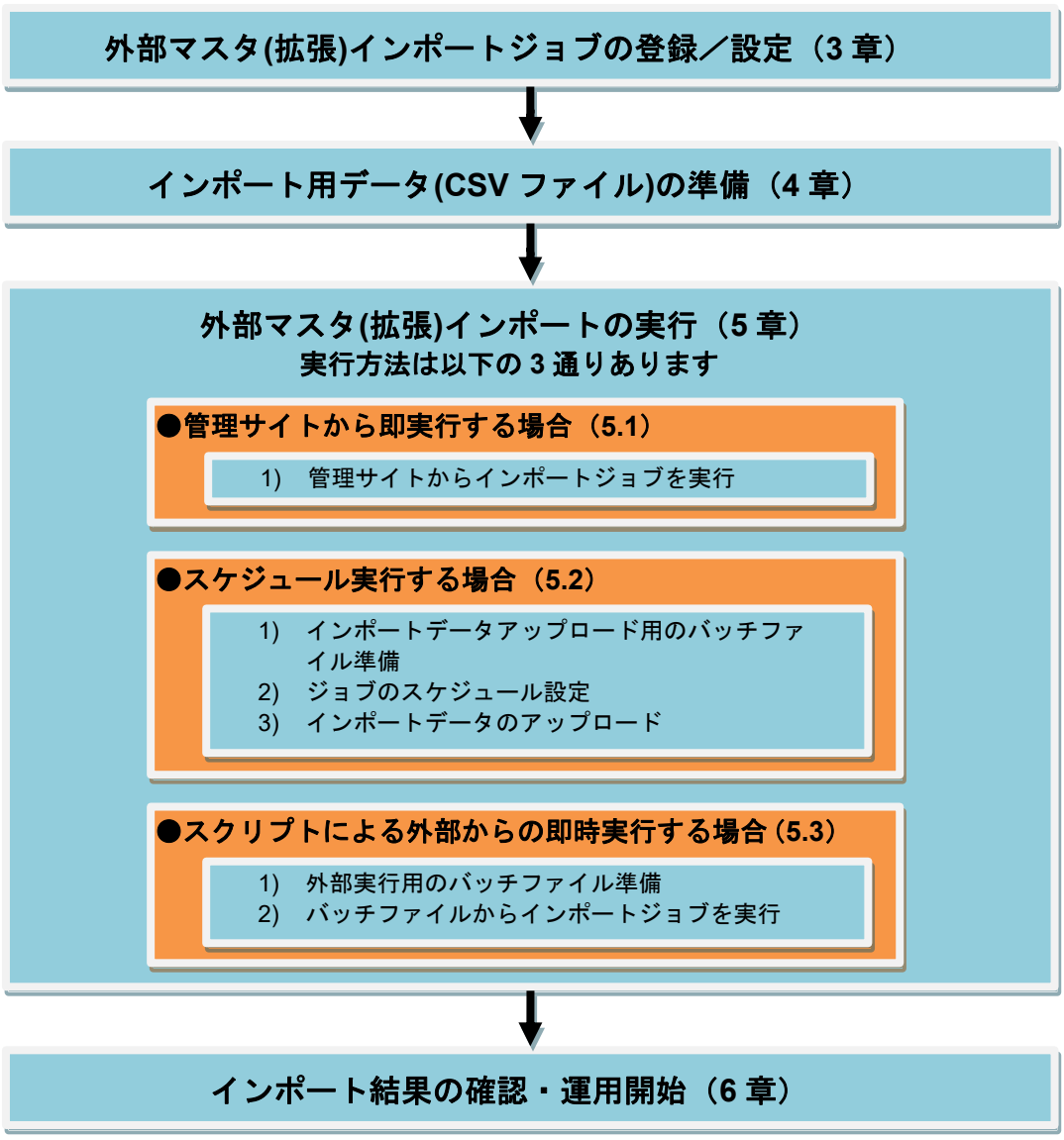
2.1. 外部マスタ(拡張)インポートジョブ

AgileWorks のジョブ機能を利用し外部マスタ(拡張)へデータをインポートします。
外部マスタ(拡張)インポートのジョブ設定を任意に追加し、設定されたジョブについて即時実行したり、スケジュール実行することができます。

2.2. 外部マスタ(拡張)インポートジョブの流れ

外部マスタ(拡張)インポートジョブは以下のような流れ／手順で設定／実行します。

▼外部マスタ(拡張)インポートジョブの流れ



2.3.　外部マスタ(拡張)インポートジョブの設定方法

外部マスタ(拡張)インポートジョブの設定は AgileWorks の管理サイトから行います。
具体的な設定については、「インポートジョブの設定」の章を参照してください。

2.4.　外部マスタ(拡張)インポートジョブの実行方法

外部マスタ(拡張)インポートジョブの実行は以下の 3 通りあります。
実行方法については、それぞれの章を参照してください。

- ジョブ設定画面から即時実行
- ジョブ設定画面からスケジュール設定して、定期的に実行
- バッチ実行による即時実行

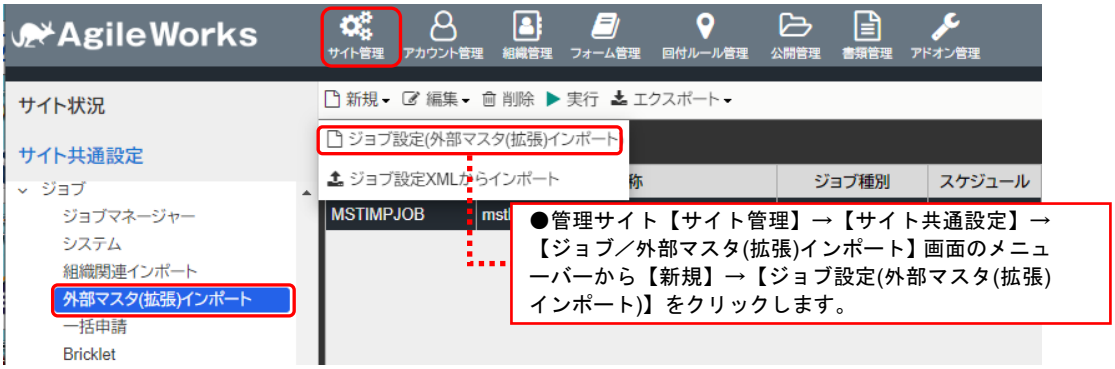
3. ジョブの設定

外部マスタ(拡張)インポートのジョブ設定・実行の操作方法について説明します。

3.1. 外部マスタ(拡張)インポートジョブ設定の新規作成

以下の画面・手順でジョブ設定を新規作成します。

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ジョブ／外部マスタ(拡張)インポート】



▼ジョブ設定（外部マスタ(拡張)インポート）

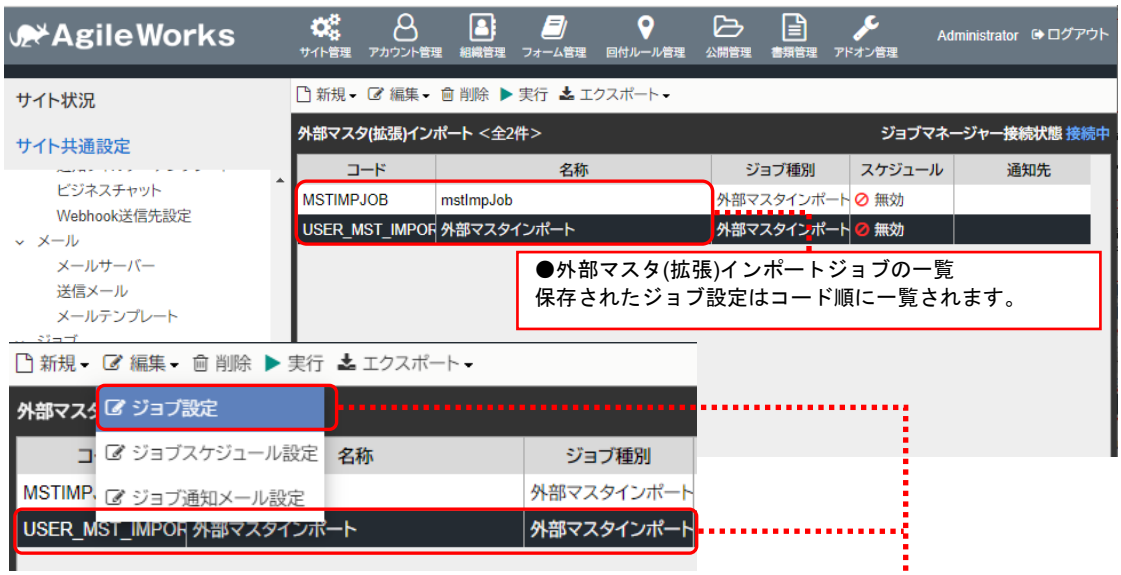


外部マスタ(拡張)インポートジョブの実行時間について
外部マスタ(拡張)インポートの実行時間はインポートするデータ量や AgileWorks の利用状況などに影響されます。
外部マスタ(拡張)に大量のデータをインポートする場合は、夜間にスケジュール実行するなどの運用をお願いします。
また、夜間に実行しユーザーが利用し始める時間にはジョブをタイムアウトさせるため、タイムアウト設定は最大 8 時間を目安に指定してください。

3.2. 外部マスタ(拡張)インポートジョブ設定の確認と編集

以下の画面・手順でジョブ設定の確認と編集を行います。

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ジョブ／外部マスタ(拡張)インポート】



●保存されたジョブ設定は以下の方法で確認・編集します。
・ジョブ一覧にて対象のジョブを選択した状態でメニューバーから【編集】→【ジョブ設定】をクリック
・ジョブ一覧にて対象のジョブをダブルクリック

3.3. 外部マスタ(拡張)インポートジョブの通知設定

ジョブ通知メールを設定すると、外部マスタ(拡張)インポートジョブが実行開始／実行完了したタイミングで設定したメールアドレスにメールで通知します。
ジョブのメール通知設定に関しては別紙「Aw03-ジョブガイド」の「ジョブの通知メール設定」を参照ください。

4. インポートデータの準備

外部マスタ(拡張)にインポートするデータを以下の仕様を確認の上、用意します。

4.1. データ形式

形式	説明
拡張子	可変長テキスト形式の CSV ファイル
文字コード	ジョブ設定にて指定した文字コードを使用してください。
区切り文字	カンマ「,」(半角) 書類に利用するデータ内にカンマが存在する場合は、項目の前後を半角のダブルクォーテーション「"」で囲む事によって利用できます。 ※カンマが存在しない場合でも囲んでも構いません。
囲み文字	ダブルクォーテーション「"」(半角) 書類に利用するデータ内に「"」が存在する場合は、項目の前後を半角の「"」で囲み、 且つデータに利用したい「"」を 2 重に入力することで利用できます。 ※例）文字列「aaaa"bbbb」 > CSV データ上の入力内容「,"aaaa""bbbb",」
改行コード	「CR+LF／LF／CR」の 3 種類を改行として認識します。
1 行目の扱い	ヘッダー行として扱われます。 インポートするテーブルのカラム名を指定して下さい。
フィールドの順番	ヘッダー行で指定したカラムの順番でデータを作成して下さい。
取込方式	対象の外部マスタ(拡張)を全件削除後、CSV ファイルのデータを登録します。 差分登録はできませんので、CSV ファイルには全件データを含めてください。 （存在しないデータは物理削除されます。）

例）
〇『1,20100401,20110331,test,あいうえお』
〇『"1", "20100401", "20110331", "test", "あいうえお"』

▼『あいう,えお』が 1 つのデータ項目の場合
×『1,20100401,20110331,test,あいう,えお』
〇『1,20100401,20110331,test,"あいう,えお"』

▼『aaaa"bbbb』がデータ項目の場合
×『1,20100401,20110331,test,"aaaa"bbbb"』
〇『1,20100401,20110331,test,"aaaa""bbbb"』

上記の形式で 1 から CSV ファイルを作成することもできますが、既に上記の形式となっている CSV ファイルをエクスポートすることもできます。
CSV ファイルのエクスポートに関しては「外部マスタ(拡張)のエクスポート」を参照ください。

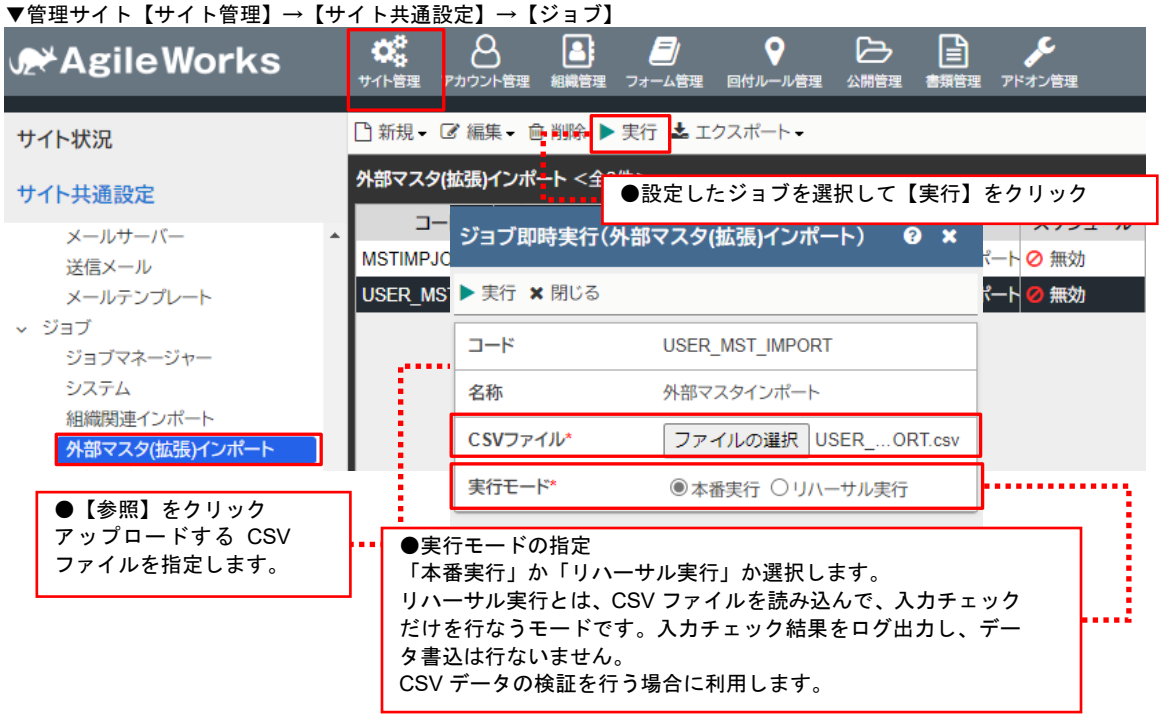
5. 外部マスタ(拡張)インポートの実行

この章では、外部マスタ(拡張)インポートを実行する 3 つの方法について説明します。

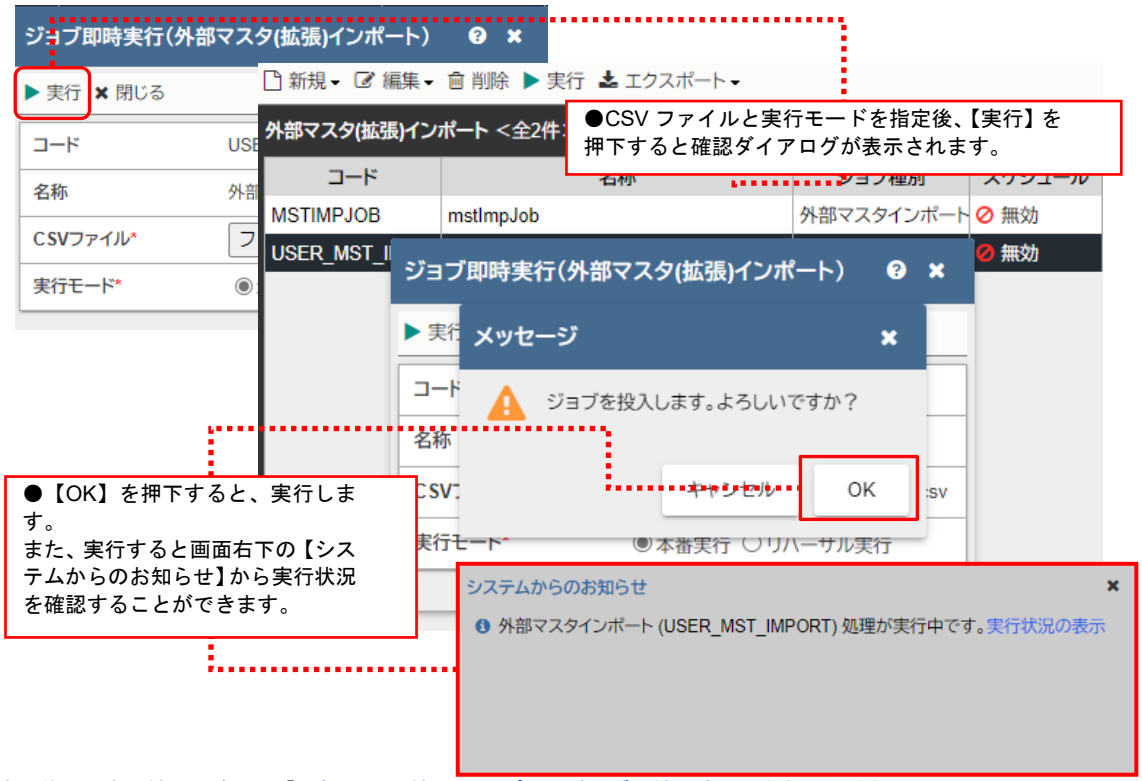
5.1. 管理サイトからの即時実行

以下の画面から外部マスタ(拡張)インポートジョブを実行します。

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ジョブ】



▼外部マスタ(拡張)インポートジョブの即時実行

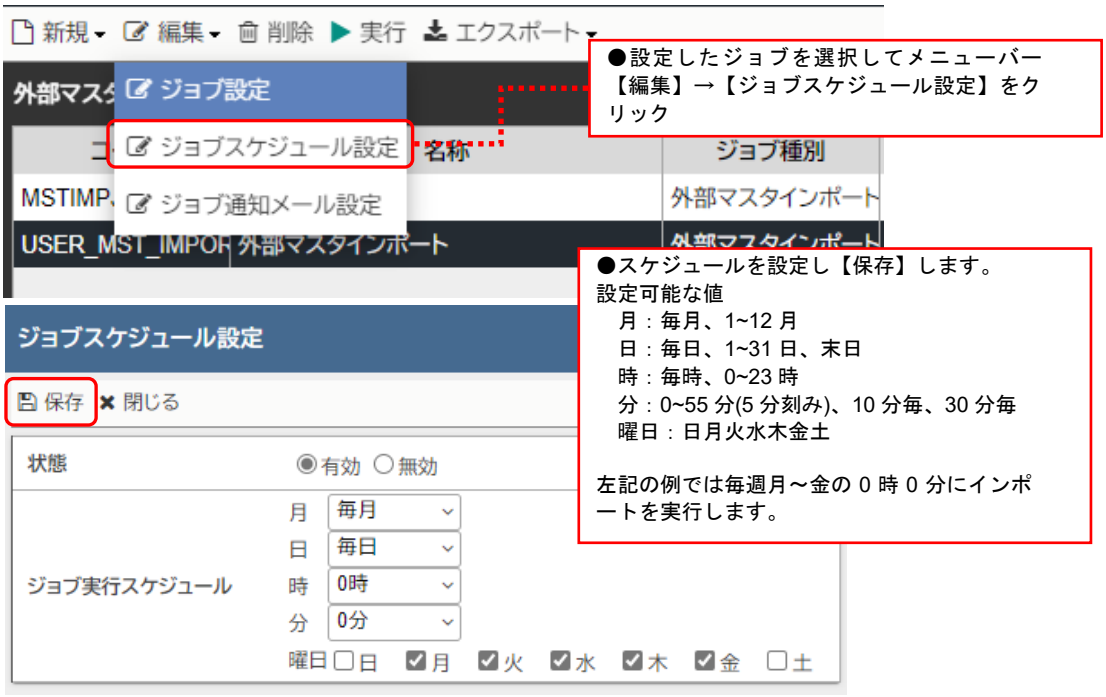


実行状況・実行結果の確認は「外部マスタ(拡張)インポートジョブの結果確認」を参照ください。

5.2.　設定を用いたスケジュール実行

ジョブを定期的に実行するにはスケジュール設定を行ないます。

▼スケジュール設定（管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ジョブ】→【外部マスタ(拡張)インポート】）



スケジュールを設定すると、設定した時間帯に外部マスタ(拡張)インポートジョブが実行されます。
外部マスタ(拡張)インポートジョブで読み込む CSV ファイルは「インポートファイルのアップロード」の要領で、実行時間までに AgileWorks へアップロードしておきます。

> スケジュール実行時の実行モードについて
> スケジュール実行する場合の実行モードはインポートファイルのアップロード時に指定します。

インポートファイルのアップロード

インポートジョブをスケジュール実行する場合、実行時間までに、インポートするファイルをアップロードしておく必要があります。

スクリプトの実行条件

AgileWorks が提供するスクリプトは AgileWorks に対して、アクセス可能なネットワークポート(80 番など)でネットワーク接続が可能である環境において実行することができます。
また、スクリプトを実行する環境に Java7 以上の JRE がインストールされている必要があります。

【スクリプトの取得】

サポートサイトより zip ファイルをダウンロードし、スクリプトを実行する環境に配置・展開してください。
zip ファイルを展開すると、 remote というディレクトリが生成されます。
　→　c:¥apps¥aw_mst_import¥remote(展開後のディレクトリ)　など

【スクリプトの構成】

remote ディレクトリ配下は以下の構成となっています。

remote 配下のディレクトリ	ファイル	備考
bin 配下	―	スクリプトの内部モジュール
bricklet 配下	―	Bricklet ジョブに利用するファイル ※外部マスタ(拡張)インポートでは利用しない
bulk_apply 配下	―	一括申請ジョブに利用するファイル ※外部マスタ(拡張)インポートでは利用しない
conf	remote_env.bat remote_env.sh	設定ファイル
org_import 配下	―	組織インポートに利用するファイル ※外部マスタ(拡張)インポートでは利用しない
doc_export 配下	―	書類ファイル出力(バッチ)に利用するファイル ※外部マスタ(拡張)インポートでは利用しない
user_mst_import	remote_cmd.bat remote_cmd.sh	【実行スクリプト】 各スクリプトが内部で実行するスクリプト
	submit.bat submit.sh submit_wait.bat submit_wait.sh	【ジョブ実行用スクリプト】 外部からインポートジョブを実行する際に利用します
	upload.bat upload.sh	【アップロードスクリプト】 インポートファイルのアップロードに利用します

外部マスタ(拡張)インポートでは上記の bin / conf / user_mst_import を利用します。

▼接続するAgileWorksの設定

conf/remote_env.sh(bat)を実行環境に合わせてテキスト編集します。

▼remote_env.bat(Windows)の場合

```
rem 接続先 URL を指定して下さい
set AWURL=http://127.0.0.1/AgileWorks

rem ログイン ID を指定して下さい
set USER=mst_import_user

rem パスワードを指定して下さい
set PASS=********

・・・
```

●設定例

```
rem 接続先 URL を指定して下さい
set AWURL=https://atled.import/AgileWorks

rem ログイン ID を指定して下さい
set USER=mst_import_user

rem パスワードを指定して下さい
set PASS=mst_import_pass
```

▼remote_env.sh(Linux)の場合

```
# 接続先サーバーを指定して下さい
AWURL=http://127.0.0.1/AgileWorks

# ログイン ID を指定して下さい
USER=mst_import_user

# パスワードを指定して下さい
PASS=********

・・・
```

【スクリプト内の編集】

設定値	説明
AWURL	接続先 AgileWorks の URL を指定します。
USER	実行ユーザーのログイン ID を指定します。 admin ユーザーを指定するか、または全コンテンツ・全業務カテゴリへの権限を持つ管理ロールを保持するユーザーを指定してください。
PASS	実行ユーザーのパスワードを指定します。

▼アップロードスクリプトの実行

user_mst_import/upload.sh(bat)
に引数を渡して実行します。

【スクリプトに渡す引数】
スクリプト実行時は以下の引数を指定してください。

引数名	必須	説明
CODE	○	対象の外部マスタ(拡張)インポートジョブのコードを指定します。
DATA	○	アップロードするファイルをフルパスで指定します。
MODE		アップロードした CSV を利用するジョブの実行モードを指定します。 指定した実行モードに関わらず、CSV ファイルはアップロードされます。 実行モードを省略した場合は"本番モード"として動作します。 本番モード：REALPART_FAST リハーサルモード：REHEARSAL

アップロード時に指定する実行モードは、以下のように作用します。
▼リハーサルモードを指定した場合
アップロードされたファイルをインポートするジョブが"リハーサルモード"で実行される。
▼本番モードを指定した場合
アップロードされたファイルをインポートするジョブが"本番モード"で実行される。

【スクリプト実行方法（Windows）】
・ コマンドプロンプトを開きます。
・ 環境変数（JAVA_HOME）を設定します

```
set JAVA_HOME= c:¥PROGRA~1¥JAVA¥jdk1.8.0_60
```

※ この例では、C:¥Program File¥JAVA に JRE をインストールした環境を前提としています。
実際の設定値はお使いのマシン環境に合わせてください。

・ 実行ディレクトリへ移動します。

```
cd c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import
```

※ この例では、アップロードスクリプト一式を c:¥apps¥aw_mst_import に配置した環境を前提としているので、移動先ディレクトリはお使いのマシン環境に合わせてください。

・ ファイルアップロードを実行します。

```
upload.bat $CODE $DATA $MODE
```

【スクリプト実行方法（Linux）】
・ 環境変数（JAVA_HOME）を設定します

```
export JAVA_HOME=/usr/local/jdk1.8.0_60
```

※ この例では、/usr/local に JRE をインストールした環境を前提としています。
実際の設定値はお使いのマシン環境に合わせてください。

・ 実行ディレクトリへ移動します。

```
cd /home/aw_mst_import/remote/user_mst_import
```

※ この例では、アップロードスクリプト一式を/home/aw_mst_import に配置した環境を前提としているので、移動先ディレクトリはお使いのマシン環境に合わせてください。

・ 以下のコマンドを実行し、コピーしたスクリプトファイルに実行権限を付与します。

```
chmod a+x upload.sh
chmod a+x remote_cmd.sh
```

・ ファイルアップロードを実行します。

```
./upload.sh $CODE $DATA $MODE
```

アップロードスクリプトの実行例

【Windows 環境：スクリプトを c:¥apps¥aw_mst_import¥remote に配置した場合】

▼正常に実行できた場合

```
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>upload.bat USER_MST_IMPORT c:¥emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
  <Status>SUCCEED</Status>
</Response>
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>
```

▼存在しないジョブコードを指定し、エラーとなった場合

```
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>upload.bat USER_MST_IMPOR c:¥emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>FAIL</Status>
   <ErrorCode>APIJOB-W0001</ErrorCode>
   <HttpStatusCode>500</HttpStatusCode>
   <MessageText>APIJOB-W0001: 指定されたコード「USER_MST_IMPOR」が登録されていません。</MessageText>
</Response>
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>
```

【Linux 環境：スクリプトを/home/aw_mst_import/remote に配置した場合】

▼正常に実行できた場合

```
[root@localhost user_mst_import]#
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>SUCCEED</Status>
</Response>
[root@localhost user_mst_import]#
```

▼存在しないジョブコードを指定し、エラーとなった場合

```
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>upload.bat USER_MST_IMPOR c:¥emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>FAIL</Status>
   <ErrorCode>APIJOB-W0001</ErrorCode>
   <HttpStatusCode>500</HttpStatusCode>
   <MessageText>APIJOB-W0001: 指定されたコード「USER_MST_IMPOR」が登録されていません。</MessageText>
</Response>
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>
```

アップロードスクリプトのステータスコード

アップロードスクリプトを実行した際に、結果として表示される主なステータスコードです。

コード	説明
SUCCESS	アップロードが完了しました。
FAIL	アップロードに失敗しました。

アップロード結果の確認

【実行結果の確認】

管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【ジョブ】→【外部マスタ(拡張)インポート】画面から、ファイルアップロードの実行結果を確認します。



このリンクが利用状態になっていればアップロードが成功したこととなります。
このジョブが実行されると、アップロードされたファイルは削除されます。

アップロードの注意事項
1 つの外部マスタ(拡張)インポートジョブにつき、一度にアップロードできる CSV ファイルは 1 ファイルです。
アップロード後、スケジュール実行される前に再度 CSV ファイルをアップロードすると、最後にアップロードした CSV ファイルが有効となります。

5.3. バッチ実行による即時実行

AgileWorksが提供するスクリプトを利用することによって､AgileWorksが導入されている環境以外から外部マスタ(拡張)インポートジョブを実行することができます。
このスクリプトはインポートするCSVのアップロードと、外部マスタ(拡張)インポートジョブの実行を行います。

スクリプトの取得・構成・接続するAgileWorksの設定

インポートスクリプトはアップロードスクリプトと同じものを利用し、設定も同様となりますので、詳細は
「インポートファイルのアップロード」を参照してください。

スクリプトの実行

バッチ実行用のスクリプトは、2種類用意されています。

ファイル	説明
user_mst_import/submit.sh(bat)	ジョブを実行します。実行結果は表示されません。
user_mst_import /submit_wait.sh(bat)	ジョブを実行し、完了するまで待機します。 ジョブの完了後、結果を表示します。

上記どちらかのスクリプトに以下の引数を渡して実行します。

【スクリプトに渡す引数】

引数名	必須	説明
CODE	○	対象の外部マスタ(拡張)インポートジョブのコードを指定します。
DATA	○	アップロードするファイルをフルパスで指定します。
MODE		ジョブの実行モードを指定します。（省略可） 実行モードを省略した場合は”本番モード”として動作します。 本番モード：REALPART_FAST リハーサルモード：REHEARSAL

【スクリプト実行方法（Windows）】

・ コマンドプロンプトを開きます。
・ 環境変数（JAVA_HOME）を設定します

```
set JAVA_HOME= c:¥PROGRA~1¥JAVA¥jdk1.8.0_60
```

※ この例では、C:¥Program File¥JAVA に JRE をインストールした環境を前提としています。
実際の設定値はお使いのマシン環境に合わせてください。

・ 実行ディレクトリへ移動します。

```
cd c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import
```

※ この例では、アップロードスクリプト一式を c:¥apps¥aw_mst_import に配置した環境を前提としているので、移動先ディレクトリはお使いのマシン環境に合わせてください。

・ 外部マスタ(拡張)インポートジョブを実行します。

```
submit.bat $CODE $DATA $MODE
```

又は

```
submit_wait.bat $CODE $DATA $MODE
```

【スクリプト実行方法（Linux）】

・ 環境変数（JAVA_HOME）を設定します

```
export JAVA_HOME=/usr/local/jdk1.8.0_60
```

※ この例では、/usr/local に JRE をインストールした環境を前提としています。
実際の設定値はお使いのマシン環境に合わせてください。

・ 実行ディレクトリへ移動します。

```
cd /home/aw_mst_import/remote/user_mst_import
```

※ この例では、アップロードスクリプト一式を/home/aw_mst_import に配置した環境を前提としているので、移動先ディレクトリはお使いのマシン環境に合わせてください。

・ 以下のコマンドを実行し、コピーしたスクリプトファイルに実行権限を付与します。

```
chmod a+x submit.sh
chmod a+x submit_wait.sh
chmod a+x remote_cmd.sh
```

・ 外部マスタ(拡張)インポートジョブを実行します。

```
./submit.sh $CODE $DATA $MODE
```

又は

```
./submit_wait.sh $CODE $DATA $MODE
```

バッチ実行スクリプトの実行例（Windows環境の場合）

スクリプトを c:¥apps¥aw_mst_import¥remote に配置した場合の例

【submit.bat の実行例】

・ 正常に実行できた場合

```
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>submit.bat USER_MST_IMPORT c:¥emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
  <Status>RUNNING</Status>
  <JobNo>000165</JobNo>
</Response>
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>
```

・ 存在しないジョブコードを指定し、エラーとなった場合

```
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>submit.bat USER_MST_IMPOR c:¥emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
  <Status>FAIL</Status>
  <ErrorCode>APIJOB-W0001 </ErrorCode>
  <HttpStatusCode>500</HttpStatusCode>
  <MessageText>APIJOB-W0001: 指定されたコード「USER_MST_IMPOR」が登録されていません。</MessageText>
</Response>
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>
```

【submit_wait.bat の実行例】

・ 正常に実行できた場合

```
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>submit.bat USER_MST_IMPORT c:¥emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
  <Status>FINISHED</Status>
  <JobNo>000185</JobNo>
</Response>
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>
```

・ 項目数が一致しないデータをインポートし、エラーとなった場合

```
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>submit_wait.bat USER_MST_IMPORT c:¥emp_mst.csv
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
  <Status>ERROR</Status>
  <JobNo>000190</JobNo>
</Response>
c:¥apps¥aw_mst_import¥remote¥user_mst_import>
```

バッチ実行スクリプトの実行例（Linux環境の場合）

スクリプトを/home/aw_mst_import/remote に配置した場合の例

【submit.bat の実行例】

・ 正常に実行できた場合

```
[root@localhost user_mst_import]# submit.sh USER_MST_IMPORT /home/data/emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
  <Status>RUNNING</Status>
  <JobNo>000191</JobNo>
</Response>
[root@localhost user_mst_import]#
```

・ 存在しないジョブコードを指定し、エラーとなった場合

```
[root@localhost user_mst_import]#   submit.sh USER_MST_IMPOR /home/data/emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
  <Status>FAIL</Status>
  <ErrorCode>APIJOB-W0001</ErrorCode>
  <HttpStatusCode>500</HttpStatusCode>
  <MessageText>APIJOB-W0001: 指定されたコード「USER_MST_IMPOR」が登録されていません。</MessageText>
</Response>
[root@localhost user_mst_import]#
```

【submit_wait.bat の実行例】

・　正常に実行できた場合

```
[root@localhost user_mst_import]# submit_wait.sh USER_MST_IMPORT /home/data/emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>FINISHED</Status>
   <JobNo>000194</JobNo>
</Response>
[root@localhost user_mst_import]#
```

・　項目数が一致しないデータをインポートし、エラーとなった場合

```
[root@localhost user_mst_import]# submit_wait.sh USER_MST_IMPORT /home/data/emp_mst.csv REHEARSAL
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>ERROR</Status>
   <JobNo>000195</JobNo>
</Response>
[root@localhost user_mst_import]#
```

 submit_wait.bat(sh)について
submit_wat.bat(sh)は実行したジョブが完了するまで画面には何も表示されません。
また、スクリプトの実行後、コマンドプロンプトを閉じたり、スクリプトの実行を中断するとジョブが実行されない場合があります。
従って、スクリプト実行後、ジョブの完了まで待機できる場合のみ利用してください。
例）夜間に submit_wait.sh を実行する仕組みを作成し、結果をログファイルに出力しておく　など

バッチ実行スクリプトのステータスコード

バッチ実行スクリプトを実行した際に、結果として表示される主なステータスコードです。

コード	説明
WAITING	待機中です。
CANCELED	ジョブを実行する前にキャンセルされました。
RUNNING	実行中です。
FINISHED	正常終了しました。
ERROR	エラーが発生しました。ログを確認してください。
INTERRUPTED	ジョブの実行中に中断されました
FAIL	ジョブの実行に失敗しました。 AP とジョブマネージャーの起動状態を確認してください。

インポート結果の確認

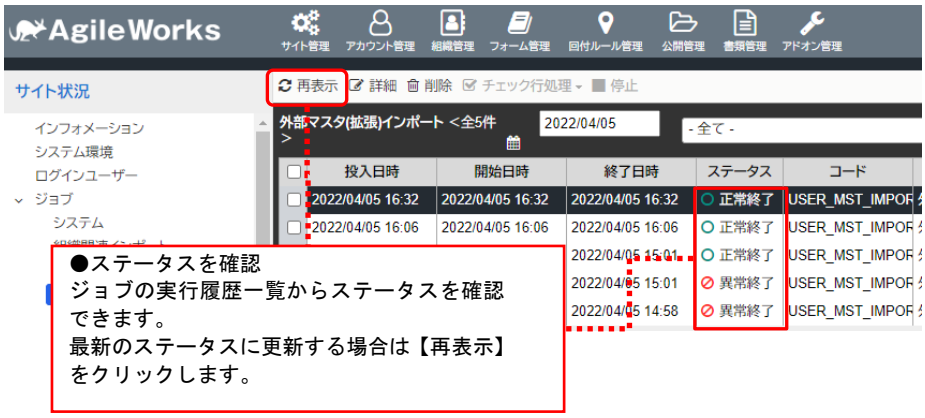
実行状況・実行結果の確認は「外部マスタ(拡張)インポートジョブの結果確認」を参照ください。

6. 外部マスタ(拡張)インポートジョブの結果確認

6.1. ステータスの確認

外部マスタ(拡張)インポートジョブの履歴一覧から実行したジョブのステータスを確認することができます。

▼ステータスの確認（管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】→【外部マスタ(拡張)インポート】）



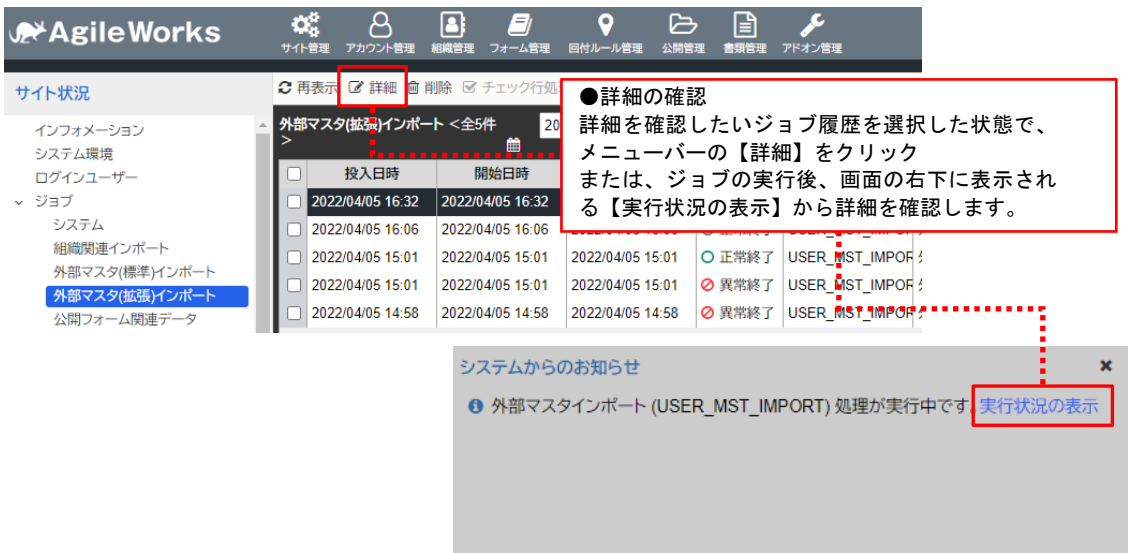
ジョブのステータス

ステータス	説明
実行中	インポートジョブの実行中です。 実際に処理されている、又は前のジョブの完了を待機している状態です。
正常終了	インポートジョブは正常に終了しました。
異常終了	インポートジョブにエラーが発生しました。 【詳細】から状況を確認してください。
中断	何らかの原因でジョブが中断された状態です。 【詳細】から状況を確認してください。

6.2. 実行状況・実行結果の詳細確認

外部マスタ(拡張)インポートジョブの実行状況・実行結果の詳細は以下のどちらかから確認します。
・管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】→【外部マスタ(拡張)インポート】
・実行後に表示される【システムからのお知らせ】→【実行状況の表示】

▼実行状況・結果の確認（管理サイト【サイト管理】→【サイト状況】→【ジョブ】→【外部マスタ(拡張)インポート】）



▼詳細の確認



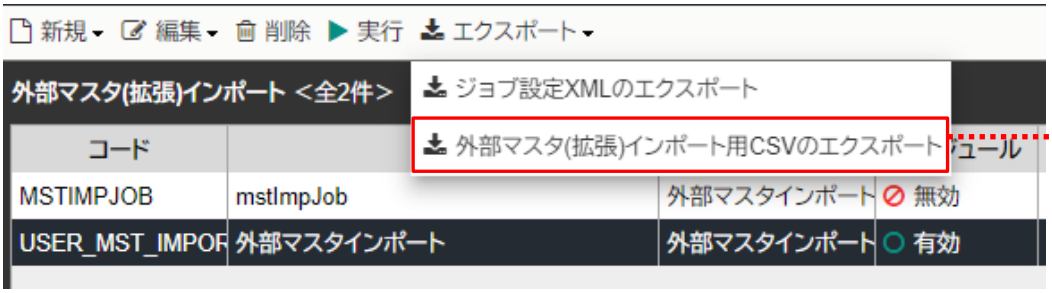
ジョブの処理順序について
外部マスタ(拡張)インポートジョブは実行された順番に処理されます。
既にジョブが実行されている状態で別のジョブを実行した場合、先のジョブの終了後、後続のジョブを処理します。
並列処理は行いません。

7. 外部マスタ(拡張)のエクスポート

外部マスタ(拡張)インポートジョブの定義を利用して、外部マスタ(拡張)テーブルのデータをエクスポートすることができます。
また、ダウンロードした CSV ファイルはそのまま外部マスタ(拡張)インポートに利用することができます。

※外部マスタ(拡張)のエクスポートは管理サイトからのみ実行可能です。スケジュール実行はできません。

▼管理サイト【サイト管理】→　【サイト共通設定】→【ジョブ／外部マスタ(拡張)インポート】



●エクスポートしたい外部マスタ(拡張)テーブルに対してインポートを行うジョブを選択し、メニューバーから【エクスポート／外部マスタ(拡張)インポート用 CSV のエクスポート】をクリックし、CSV ファイルをダウンロードします。

画面の例では、ジョブのコードが”USER_MST_IMPORT”のジョブからマスタデータをエクスポートしているので、”USER_MST_IMPORT.csv”といったファイルがダウンロードされます。



●設定画面の”テーブル名”に設定されている外部マスタ(拡張)テーブルのデータをダウンロードします。